

# 論文内容要旨

介護ボランティア活用の可能性について  
-要介護者・介護家族を地域で支える地域包括ケアシ  
ステムの視点から-

主指導教員：梯 正之教授  
(統合健康科学部門 健康情報学)

副指導教員：岡村 仁教授  
(応用生命科学部門 精神機能制御科学)

副指導教員：川崎 裕美教授  
(統合健康科学部門 地域・学校看護開発学)

辰己 俊見

(保健学研究科 保健学専攻)

題目：介護ボランティア活用の可能性について

-要介護者・介護家族を地域で支える地域包括ケアシステムの視点から-

本研究は、要介護者・介護家族を地域で支える地域包括ケアシステムの視点から、介護ボランティア活用の可能性について調査、検証を行った。

研究 1.(1) においては、介護施設で活動する介護ボランティアの保有能力（スキル・意欲・価値観、知識）と地域活動における活動要因について調査し、地域包括ケアシステムにおける、人的資源の可能性の研究を行った。研究 1.(2) においては、介護施設における介護ボランティア活動状況等の視点から、介護施設の「見える化」についても研究を行った。

研究 2 においては、施設内にとどまっている介護ボランティア活動を地域活動に広げ、地域包括ケアシステムの一翼が担え、要介護者・介護家族の支援に貢献できる教育方法の研究・検証を目的に研究を行った。

研究 1(1)：介護施設で活動するボランティアの人的資源の可能性について -要介護者・介護家族を地域で支える地域包括システムの視点から-

分析数：196 名。調査項目：介護ボランティアの概要、活動動機、活動の充実感、地域活動、教育。調査方法：質問紙調査。分析方法：探索的因子分析、確証的因子分析。

#### 結論

介護ボランティアは、住民の当事者として、日々の活動を通じて現状に対する問題意識を持ち、社会に貢献する潜在力、活動の意義と重要性、人のつながり、活動の価値、責任感、意欲、達成感等の意識等の保有能力と地域活動の可能性を有していることが推察された。地域活動における介護ボランティアの活用には、介護ボランティアの保有能力への対応と介護ボランティア教育の検討が示唆された。

研究 1(2)：介護施設の「見える化」の要因について -要介護者・介護家族、介護ボランティア活動の視点から-

分析数：126 名。調査項目：介護施設の概要、設備・人材の地域開放、介護ボランティアに対する職員等の配慮、ステークホルダーに対する職員等の配慮、ボランティアの受け入れ。調査方法：質問紙調査。分析方法：探索的因子分析、確証的因子分析。

#### 結論

要介護者・介護家族、介護ボランティア活動の視点から検証を行った指標項目は、介護施設の「見える化」関連要因であることを確認した。指標項目に基づく介護施設の数値化

が可能となり、介護施設の「見える化」を推定する方法として、活用できる可能性が示唆された。

人間関係が閉鎖的な環境で発生しやすい職員の不適切な対応に対して、介護ボランティアが予防的役割を發揮できることが推察され、ケアの向上にも寄与することが推察された。

研究2：介護ボランティアに対する教育方法について-要介護・介護家族を地域で支える地域包括ケアシステムの視点から-

分析数：160名。調査項目：介護施設の教材、教育実施状況、教育効果測定(受講者の満足度、教育達成度、行動変容要因と行動変容、地域住民、要介護者・介護家族の満足度)。

分析方法：単純集計、ノンパラトメトリック検定。

#### 結論

教育を修了した介護ボランティアは、教育の進め方、教材等に対する満足感を実感し、知識や技能の習得、企画力の向上、地域における活動の広がりも確認され、具体的な実践行動を始めることが明らかになった。さらに、地域住民、要介護者・介護家族の満足感も確認され、教育の有効性が検証された。

以上の結果から、要介護者・介護家族を地域で支える地域包括ケアシステムにおける介護ボランティア活用の可能性が示唆された。今後、介護ボランティアの活用については、介護施設だけでなく、関係団体、関係機関等が協働して取り組むことが重要である。